

建築屋さんの旅行

引田さんよりバトンを引き継ぎました、鈴木律です。今回は趣味である旅行の話です。日々の苦行から逃れて旅に出ても、手元に残るのは商売道具の写真ばかり。ちなみに私は建築の構造設計を仕事にしております。困ったことに、人の行くところには大抵建築物があるのです。お気に入りの場所をいくつか。



マラケシュ(モロッコ)のジャマ・エル・フナ広場



フェズ(モロッコ)のメディナ

写真はマラケシュのジャマ・エル・フナ広場です。メディナ(旧市街)の入口にあたり、夕方には多くの屋台や大道芸人が出て、お祭りのように人であふれかえっています。一步メディナに足を踏み入れると、細い路地が複雑に入り組み、スークや住宅がぎっしりと詰まった、まさに迷宮です。この先に何があるのだろうかという期待と不安が入りまじり、先に進まずにはいられません。モロッコ、イタリア、スペインといった地中海沿岸の国々の迷宮都市を歩くのは本当にワクワクします。

エンジニアとして興味深いのはロンドンのミレニアム・ブリッジでしょうか。ご存知の方も多いと思いますが、2000年6月にテムズ川に歩行者専用橋として開通したものの、歩行者により橋桁が横に揺れ、その振幅が数センチに達したため、開通わずか3日後に閉鎖されました。再開通したのは開通から1年半後、ミレニアムもとくに終わった2002年2月のこと。原因は大勢の人がたまたま歩調を合わせると、それによって橋が少し横揺れする、人々はその横揺れに合わせて歩き出す、ついには橋の横揺れと人々の歩調が同期し共振して大きな横揺れになったというものでした。

ミレニアム・ブリッジはコンペによって200もの応募案から選ばれたもので、建築家ノーマン・フォスターと彫刻家アントニー・カーロによるデザインです。ケーブルを水平に渡し、それに桁を持たせた、軽く透明感がある、都会的な橋です。デザイン的には素晴らしい橋でしたが、橋の横剛性が低すぎたようです。結局、横方向の動きを吸収する粘性ダンパーを追加し、外観を損なうことなく再開通に至りました。「用・強・美」のバランスを取ることの難しさを改めて感じさせられる橋です。最初に訪れたときは閉鎖中で、渡れない橋を眺めるばかりだったので、再開通後は他の名所には目もくれずミレニアム・ブリッジへ。エンジニアの努力の甲斐あってか、あまり揺れは感じませんでした。50年代につくられた火力発電所の内部を再利用した美術館、テートモダンの目前なので、機会があったら渡ってみてください。

JSPE 会員のみなさんは旅に出る機会の多い方々だと思います。面白い場所の情報をぜひお寄せください。さて次はどこに行こうかな。



ミレニアム・ブリッジ